

百貨店美術部や日本画商(新画商)が開催した東京における展観の記録

市井展の全貌

淡交会、珊々会、尚美展から東京会まで(戦前編)

東京美術倶楽部 編

竹内栖鳳《斑猫》、川合玉堂《峰の夕》などが出品され、作家の自由な作品発表の場であり、生活に彩りを添える販売の場であった市井展！ 近代美術作品の発表の実態をくまなく網羅！



八木書店

Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8
●TEL:03-3291-2961[営業] -2969[編集] -6300[FAX]
●E-mail:pub@books-yagi.co.jp ●Web:http://www.books-yagi.co.jp/pub

市井展の全貌

—淡交会、珊々会、尚美展から東京会まで(戦前編)—

A4判・上製本・貼函入・538頁・カラー口絵4丁・定価21,000円(本体20,000円+税5%)

目次

第1部 三越美術部—百貨店美術部1

- 第1章 三越美術部主催会員展(大正13年11月~昭和18年1月)
 - (1. 淡交会 / 2. 七絃会 / 3. 六潮会 / 4. 春虹会 / 5. 三春会 / 6. 十宜会)
- 第2章 三越美術部主催日本画展(明治43年4月~昭和19年12月)
- 第3章 三越を会場とするその他の日本画展(大正11年10月~昭和19年2月)

第2部 高島屋美術部—百貨店美術部2

- 第1章 高島屋美術部主催会員展(昭和9年12月~昭和18年6月)
 - (1. 珊々会 / 2. 踏青会 / 3. 青丘会(高島屋四人展、高島屋五人展) / 4. 淡如会)
- 第2章 高島屋美術部主催日本画展(大正5年12月~昭和19年7月)
- 第3章 高島屋を会場とするその他の日本画展(昭和10年5月~昭和18年10月)

第3部 東美会の日本画商

- 第1章 関尚美堂
 - 関尚美堂主催会員展(大正15年4月~昭和18年2月)
 - (1. 尚綱会〔第一次〕 / 2. 九阜会 / 3. 清尚会 / 4. 綵尚会 / 5. 尚綱会〔第二次〕)
 - 関尚美堂主催日本画展(大正8年11月~昭和19年12月)
- 第2章 松島画舫
 - 松島画舫主催日本画展(昭和3年7月~昭和19年2月)
- 第3章 角谷二葉堂
 - 角谷二葉堂主催日本画展(昭和6年12月~昭和17年12月)
- 第4章 橋本多聞洞
 - 橋本多聞洞主催日本画展(昭和8年12月~昭和18年12月)
- 第5章 戸田観美堂
 - 戸田観美堂主催日本画展(昭和8年11月~昭和15年4月)
- 第6章 宮崎井南居
 - 第1節 宮崎井南居主催会員展(井井会)(昭和13年3月~昭和15年5月)
 - 第2節 宮崎井南居主催日本画展(昭和10年11月~昭和15年12月)
- 第7章 栗田九品庵
 - 栗田九品庵主催日本画展(昭和11年12月~昭和18年3月)

第4部 東京会

- 東京会主催日本画展(大正7年月未詳~昭和18年11月)

作家別掲載図版一覧

●百貨店・美術商が開催した戦前における日本画の画家の新作発表の展覧会五〇〇余りを収録。
●本書収録の延べ作品点数は約一万点。精確な本文により出品作品や同時代評などが判明。
●その中、約四千点を参考図版として掲載。巻末の「作家別掲載図版一覧」により作品の検索が可能。

申 込 書	東京美術倶楽部編・八木書店刊		2012年8月末刊行	取扱店(番線印)	
	市井展の全貌 淡交会、珊々会、尚美展から東京会まで(戦前編)〔 〕冊				
	ISBN978-4-8406-7015-9 C3071 ¥20000E 定価21,000円(本体20,000円+税5%)				
	お名前(ふりがな)		TEL		
ご住所 〒		FAX			
		E-MAIL			

このたび、「市井展」の全貌―淡交会、珊々会、尚美展から東京会まで―(戦前篇)を上梓する運びとなりました。「市井展」とは戦前から戦後にかけて百貨店美術部、日本画商(新画商)が開催した画家の新作発表の場でありました。上野を中心とした官展、公募展等に対し、市井の人々の眼を楽しませるだけでなく、生活に彩りを添える美術品の販売も兼ねた展覧会ということで「市井展」と称せられていました。昨今では耳にすることはなくなりましたが、『塔影』『阿々土』といった美術雑誌に作品図版入りで批評文が載るなど、人々に関心を持たれ、親しまれていた往時の姿が垣間見られます。

市井展の会場は百貨店美術部だけでなく、芝の東京美術倶楽部もまたその展観の場でありました。『美術商の百年―東京美術倶楽部百年史』の年表にもその記録が記されておりますが、その内容にまでは触れられておりません。そこで本書では、百年史ではカバーしきれなかった関尚美堂、東京会といった日本画商が主催した展観内容について詳細に記録することを目的としました。

また、文字による情報だけでなく、約四千点の画像も掲載いたしました。これにより現存する作品の来歴がわかるきっかけの一助となればと存じます。

市井展の全貌を探る為、あらゆる美術展の軌跡と記録をひとつひとつ丁寧に実証し、当時の資料を徹底的に調べて纏め上げるという地味で根気のいる仕事を、日本における展覧会史研究の少ない専門家である中島理壽氏に依頼しました。今まで日の眼を見る事なかった市井展の記録を我々と共に残そうとされる中島氏の情熱には心より感謝申し上げます。

平成も約四半世紀が過ぎ、戦前だけでなく昭和時代全体が遠い過去となってきた今、市井展について語ることは少なく、個人所有に頼らざるをえず、その散逸も危惧されています。今後は戦前篇に引き続き、戦後篇を予定しております。全ての美術関係者の方々に資する研究書となるよう鋭意調査中でございます。こちらにも引き続きお手にとって頂きたく存じます。

(株)東京美術倶楽部
代表取締役社長 浅木 正勝

本書の特色

- 本書には、明治43年4月の三越第1回現代大家半切画会から昭和19年12月14日、銀座資生堂にて開催された関尚美堂日本画小品展までの500余りの市井展を収録。
- 販売目録という理由から現存するものは極めて少ない主催者発行の展覧会図録を博捜し、各展観の概要を精確に記載。
- 各展覧会の記載は、展観の主催者(会名)・期間・場所・執筆者及び出品作品名に加えて図録以外の雑誌(『塔影』『阿々土』など)に掲載された作品図版の記録や主な同時代文献などとした。
- 本書収録の延べ作品点数は、約10,000点。その中から約4,000点の作品を参考図版として掲出し、巻末に「作家別掲載図版一覧」を付した。
- 当時活躍していた作家の展覧会出品動向の解明、および従来知られていない作品との遭遇が期待できる労作。

見本組 本文と作家別掲載図版一覧 (80%に縮小)

淡交会第三回展(近藤)
藝天 第34号(大正15年12月号) pp.4-5 美術界総覧

淡交会第三回展(無署名)
書畫骨董雑誌 第222号(大正15年12月号) pp.22-23 美術象報

淡交会評(四賀煌)
中央美術 第12巻第12号(大正15年12月号) pp.117-118 展覧会記

淡交会私記(外狩素心庵)
美の國 第2巻第12号(大正15年12月号) pp.74-75

淡交会第三回展(無署名)
藝天 第35号(昭和2年1月号) p.24 美術界総覧

淡交会第4回展

昭和2年(1927)11月2日-10日 駿河町・三越呉服店7階ギャラリー 主催:三越呉服店美術部

出品(図録の目次に拠る)

川合玉堂《深秋》《四手網》《野末の秋》、横山大観《雲揺らぐ》《胡瓜》《八哥鳥》、竹内栖鳳《秋興》《水郷》、山元春挙《游峽碧痕》、小堀鞆音《東遊舞人図》、下村観山《雨後朝》《帰牧》
図録以外の作品図版:川合玉堂《深秋》=『美之國』3-10口絵、『巽』2-4-p.22。川合玉堂《野末の秋》=『美之國』3-10-p.57、『巽』2-4-p.24。[戦後]『川合玉堂展〈生誕120年記念〉〔カタログ〕』(朝日新聞社文化企画局大阪企画部 平成6年1月 会場=日本橋・高島屋ほか) No.27。小堀鞆音《東遊舞人図》=『美之國』3-10口絵。下村観山《雨後朝》=『都新聞』11.10図、『美之國』3-10口絵。下村観山《帰牧》=『美之國』3-10-p.57。竹内栖鳳《秋興》=『都新聞』11.7図、『美之國』3-10-p.77。[戦後]



川合玉堂《深秋》



川合玉堂《四手網》



川合玉堂《野末の秋》



横山大観《八哥鳥》

夏冬	257	爽涼	124
河原の夏	16	疎林	294
寒山拾得	19	瀧壺	411
金風	280	筍	99
空山寒流	404	断崖漁家	321
溪山紅葉	80	竹生嶋	19
溪山晚晴	442	池畔	439
溪村早春	91	長閑	10,452
月下帰漁	340	鎮守の雪	201
高原浅春	8	梅雨晴	8,462
高原の秋	104	投網	20
木枯の図	86	友呼雁	318
湖山新霽	426	風	468
湖山夕照	378	野馬	367
古城春雨	14	野末の秋	13
湖畔朝	80	梅花村莊	268
箎鳴	290	春雨	16
山雨新霽	437	晩婦	400
山家早春	395	富貴花	382
山村の春	352	藤	14
鹿	277,361	吹雪	409
石楠花	15	冬山松秀	418
斜陽	10	古池	285
秋山懸瀑	454	返照	444
祝捷日	138	暮靄	10
春溪	331	松風	250
春山帰牧	397	松山春禽	407
春秋	254	瑞穂	415
松間飛瀑	268,434	峰の夕	20
松竹梅	100	山家の冬	244
松籟濤声	398	山路之雪	80
初冬	422	山ふところの春	429
深山清秋	16	幽溪深秋	414
深秋	12	夕汐	11
新緑の深山	431	夕月	8
水郷初夏	424	雪	15,282,449
晴耕	11	雪晴の朝	296
鶴鶴	194	四手網	12
雪月花	102	柳陰清流	80
雪江	334	柳塘帰牧	315
仙郷	111	涼蔭	420
浅春	436	涼波	456
洗馬	113	涼風	271
早春	19	良夜	265
爽朝	185	作品名未詳	247

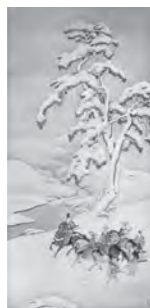
作家別掲載図版一覧 501



山元春挙《武陵桃源》



山元春挙《山市之図》



小堀鞆音《雪中放鷹》



下村観山《静渚》

100年史』(三越 平成21年3月) p.251/滋賀県立近代美術館蔵。横山大観《茄子》=『藝天』34p.6

典拠:『東京朝日新聞』10.31第8面広告、『東京毎日新聞』11.1第3面広告、『美の國』2-11=11.1美術界消息、『都新聞』11.1第12面広告、『東京毎日新聞』11.4評、『都新聞』11.5評(会期は11月4日-14日とあり)、『大阪朝日新聞』11.23第3面広告、『アトリエ』3-12評、『藝天』34評・図、『書畫骨董雑誌』222評、『中央美術』12-12評、『美の國』2-12評・美術消息、『藝天』35評、『日本美術年鑑 1927年版』p.33美術展覧会、『三越美術部100年史』p.46表・p.250(出品目録記載)

備考:大阪展(11月23日-28日、大阪・三越呉服店8階会堂)開催

刊行物

第三回淡交会図録

大塚巧藝社 大正15年11月15日

第三回淡交会図録目次

所蔵:東近美、東文研、国会図、都現美、横浜美

主な文献

第三回淡交会展〈二日より三越に開る〉(初風)

東京毎日新聞 大正15年11月4日 第3面 美術界

淡交会と六合会展(紫雲生)

都新聞 大正15年11月5日 第12面 美術界

淡交会第三回展(記者)

アトリエ 第3巻第12号(大正15年12月号)

pp.94-95 EXPOSITION

作家別掲載図版一覧から
図版が検索出来ます

ける 佃 紫陽花の		涼宵	411
垣 築地橋 作者		朗羅	268
	162	作品名未詳	247
佃の入江	260	川合玉堂	
名古屋山三	444	秋晴	241
偽紫田舎源氏	271	朝寒	368
二枚裕	116	芦雁	81,274
女人哀詞から(唐人お吉)	282	雨晴	362
沼津の富士	311	行く秋	459
濡れ燕	339	いけ籠	110
野崎村のお光	339	雨後	20
花菖蒲	156	梅に小禽	264
火花	348	浦の春	99
		燕子花	15